

場

二年

画数 12
筆順
オン ショウ
クン ヨウ

ば じょう ばば ばばば

成り立ち



「日」と、「土」と、「日のひかり(多)」と、「土」と「丁(チヨウのなまり)」とをくみあわせてつくった字です。「日のひかり」のよくあたる「土地」といういみの字です。

「よい土地」といういみで、「なにかをするのによい土地」「なにかをするのにてきた土地」「なにかをするための土地」といういみにつかわれます。

ただ「土地」ところ」といういみにもつかわれます。

「易」のつく字には、「腸」「陽」「湯」などがあ
る。音符は、「丁」であるが、**ヒョウ**、**トウ**、**トウ**という
変化があつて同じではないが、音韻変化の姿を見ること
ができる良い見本である。」

使い方

▽わたしは、おかささんと、まちあわせの場所。十二時
にあつて、レストランにおひるにきました。

▽野球をしようと、バットやボールをおいておく場所に
いったら、かげもかたちもありませんでした。だれか
が先にもつていってしまったのだとおもつて、うんどう
場にはしつていきました。

▽おとうとが砂場であそんでいたら、いじわるな男の子
がじやまをしました。わたしは、「そんないじわるをする
のは、男らしくないわ。やめなさいよ」といって、
その子をとめました。そしたら、なにかブツブツいい
ながら、いつてしまったので、わたしはおとうととい
つしよに砂場であそびました。

熟語例

▽場所(ところ)

▽ジョウイ(その場所の内がわ。「場内アナウンスで、まいご
のおしらせがあつた」などといいます。④「場外」

▽会場(会がひらかれるところ)

▽上場(きかいなどをつかつて、ものをつくること)

使い方

▽七夕には竹のえだに五色のたんざくを下げます。五色
は、はるの色の青、なつの色の赤、あきの色の白、ふ
ゆの色の黒、それに黄色をくわえた五つの色のことを
いいます。

熟語例

▽五色(青赤白黒黄色の五つの色のこと。また、「いろ
いろな色」といういみにもつかわれます。)

▽黄色(中国でたつとばれる色で、天子のきものやどう
ぐにつかわれます。「黄金色」「やまぶき色」ともいわ
れます。)

▽顔色(気もちのぐあい顔のようすにあらわれたもの
のことをいいます。「顔のようす」。顔つき)

▽原色(原は「もと」。すべての色の「もと」になる青
赤黄の三つの色のこと。「三原色」ともいいます。)

▽特色(ほかのものにくらべて特別にちがつたようすを
しているところ。「特にすぐれた所」といういみにつか
われることがおおい)

▽色紙(ふでで字や絵をかいたためのあつ紙。たんざく
のながほそいのにたいして、ましかくにちかいもの)

色

二年

画数 6
筆順
オン ショク
クン イロ

いろ

成り立ち



「巴」は、王さまがけらいをやくにつけるときに、し
るしとしてあたえるものをあらわした字です。

「色」は、その「しるし」のいみの「巴」と、人の
かたちをあらわした「ク」をくみあわせた字で、「人の
しるし」といういみの字で「かおいろ」をあらわした字
です。「かおのようす」「ようぼう」。

いまは、ただ「いろ」といういみにつかわれることが
おおくになりました。

「シヨクは漢音で、シキは呉音。呉音は「五色」など、
古い言葉に使われている。」